

相模原市立緑の休暇村センター条例施行規則

平成 18 年 2 月 20 日

規則第 12 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、相模原市立緑の休暇村センター条例(平成 17 年相模原市条例第 120 号。以下「条例」という。)の施行について必要な事項を定めるものとする。

(利用申請受付時間)

第 2 条 相模原市立緑の休暇村センター(以下「センター」という。)の利用に係る申請の受付時間は、開所日の午前 9 時から午後 5 時までとする。ただし、利用当日における利用の承認を受けた時間の延長に係る受付にあっては、この限りでない。

(利用承認申請手続)

第 3 条 条例第 6 条第 1 項の規定により、センターの利用の承認を受けようとするもの(承認された事項の変更をしようとするものを除く。以下「利用申請者」という。)は、別表に定める期間内に相模原市立緑の休暇村センター利用承認申請書(以下「利用承認申請書」という。)を指定管理者に提出しなければならない。

2 指定管理者は、利用承認申請書に必要な書類を添付させることができる。

3 第 1 項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、同項に定める期間外においても利用承認申請書を提出することができる。

(1) 市が主催する行事等のために利用するとき。

(2) 指定管理者が条例第 21 条の規定により行う同条第 7 号の事業のために利用するとき。

(3) 前 2 号に掲げるもののほか、指定管理者が公用又は公共のため特に必要があると認め、市長の承認を得たとき。

(4) センターの運営上支障がないと指定管理者が認めるとき(第 1 項に定める受付期間後に限る。)。

(利用承認等)

第 4 条 指定管理者は、前条第 1 項の規定による利用承認申請書の提出があった場

合において、その利用を、承認するときは相模原市立緑の休暇村センター利用承認通知書(以下「利用承認通知書」という。)により、承認しないときはその旨を利用申請者に通知するものとする。ただし、指定管理者が公用又は公共のため特に必要と認め、市長の承認を得たときは、この限りでない。

2 前項の利用の承認は、申請の順序により行い、申請が同時の場合は、協議又は抽選によりこれを決定するものとする。

3 利用の承認を受けたもの(以下「利用者」という。)は、利用の際、利用承認通知書を係員に提示し、指示を受けなければならない。

(利用料金の後納)

第5条 条例第8条第3項ただし書の規定により利用料金を後納とすることができる場合は、国又は地方公共団体が利用する場合その他指定管理者が特に必要があると認めた場合とする。この場合において、利用者は、指定管理者が指定する期限までに利用料金を納付しなければならない。

(利用の取消し及び承認事項変更の手続)

第6条 利用者は、利用の取消し(利用日又は利用時間を変更する場合における従前の利用日又は一部の利用時間の取消しを含む。以下同じ。)又は承認された事項の変更(以下「承認事項変更」という。)をしようとするときは、相模原市立緑の休暇村センター利用承認取消(変更)申請書を指定管理者に提出しなければならない。

2 指定管理者は、前項の規定による申請書の提出があった場合において、利用の取消し又は承認事項変更を、承認するときは相模原市立緑の休暇村センター利用承認取消(変更)通知書により、承認しないときはその旨を利用者に通知するものとする。この場合において、利用者は、承認事項変更の承認により既に納付した利用料金(以下「既納利用料金」という。)に不足を生じたときは、指定管理者に当該不足分を直ちに納付しなければならない。

(利用料金の減免)

第7条 条例第9条の規定による利用料金の減免は、次の各号のいずれかに該当する場合に、当該各号に定める率により行う。

(1) 指定管理者が条例第21条の規定により行う同条第7号の事業のために利用するとき。 100パーセント

(2) 前号に掲げるもののほか、指定管理者が特に必要があると認め、市長の承認を得たとき。 市長の承認を得て指定管理者が定める率

2 前項第 2 号の規定により利用料金の減免を受けようとする利用者は、指定管理者が別に定める方法により、指定管理者に減免の申請をするものとする。

(利用料金の還付)

第 8 条 条例第 1 0 条ただし書の規定による既納利用料金の還付は、次の各号に掲げる場合に、当該各号に定める率により行う。

(1) 災害その他利用者の責めによらない理由により利用することができなくなったとき。 既納利用料金の 1 0 0 パーセント

(2) 利用日の 7 日前までに利用の取消しを申請し、指定管理者の承認を得たとき。 既納利用料金の 1 0 0 パーセント

(3) 利用日の 3 日前までに利用の取消しを申請し、指定管理者の承認を得たとき。 既納利用料金の 5 0 パーセント

(4) 第 6 条の規定による承認事項変更の承認により、既納利用料金が過納となったとき。 既納利用料金のうち過納額の 1 0 0 パーセント

(5) 指定管理者が特に必要があると認め、市長の承認を得たとき。 市長の承認を得て指定管理者が定める率

2 前項第 2 号及び第 3 号に規定する期限の末日が休所日に当たるときは、その直後の開所日を当該期限の末日とする。

3 前項の規定により既納利用料金の還付を受けようとする利用者は、指定管理者が別に定める方法により、指定管理者に還付の申請をするものとする。

(特別な設備等の承認)

第 9 条 条例第 1 3 条の規定により特別な設備等の承認を受けようとするものは、相模原市立緑の休暇村センター特別設備等承認申請書を指定管理者に提出しなければならない。

2 指定管理者は、前項の規定による申請書の提出があった場合において、特別な設備等を、承認するときは相模原市立緑の休暇村センター特別設備等承認通知書により、承認しないときはその旨を申請者に通知するものとする。

(販売行為等の許可)

第 10 条 条例第 15 条ただし書の規定により販売行為等の許可を受けようとするものは、相模原市立緑の休暇村センター販売行為等許可申請書を指定管理者に提出しなければならない。

2 指定管理者は、前項の規定による申請書の提出があった場合において、販売行為等を、許可するときは相模原市立緑の休暇村センター販売行為等許可通知書により、許可しないときはその旨を申請者に通知するものとする。

(遵守事項)

第 11 条 利用者(利用目的に応じて入館した者を含む。)は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

(1) 許可なく建物等に張紙をし、又はくぎ類を打ち込まないこと。

(2) 許可なくセンターの器具等をセンターの敷地外へ持ち出さないこと。

(3) 許可なく指定場所以外において喫煙し、又は火気を使用しないこと。

(4) 許可なく危険物若しくは不潔な物品又は動物(身体障害者が利用する場合において同伴する身体障害者補助犬法(平成 14 年法律第 49 号)第 2 条第 1 項に規定する身体障害者補助犬(同法第 12 条第 1 項に規定する表示をしたものに限る。))を除く。)を持ち込まないこと。

(5) 騒音、怒声等を発し、又は暴力を用いる等他人に迷惑を及ぼす行為をしないこと。

(6) 木竹を伐採し、木竹以外の植物若しくは土石を採取し、又はこれらを損傷しないこと。

(7) その他係員の指示に従うこと。

(職務上の立入り)

第 12 条 指定管理者は、センターの管理上必要と認めたときは、係員を利用の承認をしている施設に立ち入らせることができる。この場合において、利用者は、当該係員の立入りを拒むことはできない。

(損傷等の届出)

第 13 条 センターの施設、器具等を損傷し、又は滅失させた者は、直ちにその旨を指定管理者に届け出なければならない。

(利用後の点検)

第 1 4 条 利用者は、承認された施設の利用を終了したときは、直ちにその旨を係員に告げ、点検を受けなければならない。

(様式)

第 1 5 条 この規則の規定により使用する書類の様式は、別に定める。

(委任)

第 1 6 条 この規則に定めるもののほか、センターの管理運営について必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成 1 8 年 3 月 2 0 日から施行する。

別表(第 3 条関係)

区分	始期	終期
個人	利用日の属する月の 6 月前の月の初日	利用日の 3 日前
団体(1 5 人以上)	利用日の属する月の 1 年前の月の初日	

備考 始期又は終期が休所日に当たるときは、その直後の開所日を当該始期又は終期とする。